

『成就法の花環』 第 221 番～第 224 番について ——二種のチベット語訳をめぐる諸問題——

大 観 慈 聖

1. 序論 「成就法」(sādhana)の集大成である『成就法の花環』(=SM)¹⁾は A.D.1100 前後に中央インドでアバヤーカラグプタ (11 世紀後半～12 世紀前半頃)によって編纂され、その後の流伝の過程で成就法が随時増補されて今日見るような形になったものと推定されている ([奥山 1988] p. 889 (p. 97) [梵仏研 IV] p. 382). SM には二種のチベット語訳が存在する. すなわち, ①アバヤーカラグプタとツルティム・ギェルツェンによる『百成就法集』(D: Nos.3143–3304/P: Nos.3964–4126)と, ②タクパ・ギェルツェンによる『成就法の大海』(D: Nos.3400–3644/P: Nos.4221–4466)である. A.D.1286 に完成した②は①の増補版であり, 両者は成就法の数と言うまでもなく, その配列法にも相違が認められる. 本稿で扱う SM 第 221 番～第 224 番のチベット語訳もその例外ではないが, 詳細な検討は未だなされていない. なお, ①に先行し, SM の編纂時にその叩き台となったとされる『サーダナシャタカ』のバリ・リンチェンタク (A.D.1040–1111) によるチベット語訳『バリの百成就法集』(D: Nos.3306–3399/P: Nos.4127–4220) には, SM 第 221 番～第 224 番に対応するチベット語訳は存在しない.

2. SM 第 221 番と第 222 番 SM 第 221 番と第 222 番は梵文校訂者のバッタチャリッヤ氏によってそれぞれ 〈*Jvālāmukhisāadhanaprayogaḥ*〉, 〈*Mahāmāyājvālāmukhivajravārāhiprayogasāadhanam*〉という梵題が与えられて個別に扱われている²⁾. 一方, ①所収のチベット語訳 (D: No.3297/P: No.4119) では SM 第 221 番と第 222 番の両者が一括されて『ヴァジュラヴァーラーヒー成就法』**Vajravārāhīsādhana* (= {VVS})³⁾ という題が与えられ, ②では SM 第 221 番～第 224 番に対応する『『吉祥なるヴァジュラヴァーラーヒー儀軌』〔に説かれた〕一切の願望の成就法』**Śrīvajravārāhīkalpa[-ukta-]sarvārthasādhana* (= {VVKSS} ②)⁴⁾の一部としてやはり SM 第 221 番と第 222 番の両者は一括されてチベット語訳されている. また, 梵文のみで現存する『マハーマーヤーヴァジュラヴァーラーヒーと名づける陀羅尼』(=MMVVNDh)⁵⁾という文献が SM 第 221 番～第 222 番と一致することが筆

(102) 『成就法の花環』 第 221 番～第 224 番について (大 観)

者によって報告されており ([大観 2010] 第 3 節参照), この事例からも SM 第 221 番と第 222 番の両者が一括して扱われていることを確認することができる。以上, バッタチャリッヤ氏が両者に与えた梵題が近代に書写された 1 写本 (氏の略号は Nb) のみに依拠したものであり (注 2 参照), 比較的古い他の諸写本には確認されないこと, 両者のチベット語訳二種がともに SM 第 221 番と第 222 番の両者を一括して扱っていること, SM 第 221 番と第 222 番の両者を一括した MMVVNDh という文献が存在することの三点から, SM 第 221 番と第 222 番は本来ひとつの文献と考えたほうが妥当であると筆者は考える。なお, ビューネマン氏は『バリの百成就法集』 (氏の略号は SST) と ①『百成就法集』 (氏の略号は S^{SPT}) にそれぞれ対応する二つの梵文写本, すなわち氏の略号の SST に対応する北京写本 (Handlist No.140) の『サーダナシャタカ』 (氏の略号は S^S) と氏の略号の S^{SPT} に対応するケンブリッジ写本 (Bendall 目録 Add.1686) の『サーダナシャタパンチャーシカー』 (氏の略号は S^{SP} = [Bhattacharyya] の略号 B, 以下本稿も S^{SP} と略), 『成就法の花環』 (氏の略号も SM), ②『成就法的大海』 (氏の略号は SST) の対応表を作成しているが, この対応表中のケンブリッジ写本 (S^{SP}) No.156 の成就法 Vajravārāhīsāhana (本稿の {VVS} に相当) に対応する SM の対応番号の「221」 ([Bühnemann] p. 69) は「221-222」と訂正されるべきである。ところで, SM 第 221 番の冒頭部は『マハーマーヤー・タントラ』第 1 章第 3 節～第 26 偈に説かれる内容を要領よく換骨奪胎して構成されており ([大観 2010] 第 3 節参照), SM 第 222 番は「マハーマーヤーの成就法」を説くことが同テキストの冒頭に明示されている ([大観 2010] 注 8)。一方, SM 第 221 番の後半部 (=MMVVNDh の中間部に相当) に説かれる陀羅尼において讃えられる女神は「ヴァジュラヴァーラーヒー」である。ここでマハーマーヤーとヴァジュラヴァーラーヒーとの関係性が注目されるわけであるが, 筆者の調査によれば, 当該陀羅尼 (Om̐ namo Bhagavati Vajravārāhi 云々～HŪṢ HŪṢ PHAṬ SVĀHĀ //) は『ヴァジュラヴァーラーヒー陀羅尼』 (東大写本 No.201-42: fols.155b3-156b1, cf. [松濤] p. 342) と一致し, 『ヴァジュラヴァーラーヒー心真言陀羅尼』 (東大写本 No.194-5: fols.16b2-18a4, cf. [松濤] pp. 342-343), 『ヴァジュラヴァーラーヒー秘密鬘真言』 (東大写本 No.420-X-9: fols.33b4-34a5, cf. [松濤] p. 343), ヴァジュラヴァーラーヒー (ヴァジュラヨーギニー) の成就法と関連文献を集めた『グヒヤサマヤ・サーダナマーラー』第 11 番のウマーパティデーヴァ作『ヴァジュラヴァーラーヒー成就法』にも確認され ([English] pp. 278-283), 『マハーマーヤー・タントラ』第 1 章第 3 節～第 26 偈の内容と類似並行する SM 第 221 番冒頭の athāto 云々～第 6

偈b句はサンヴァラ系密教の最後期に属するヴァジュラヴァーラーヒー関係の文献である『ヨーギニージャラ・タントラ』の冒頭部（東大写本 No.313: fol.1b6-2b1, cf. [松濤] p. 114, p. 286）と『ヴァジュラヴァーラーヒー儀軌タントラ』の冒頭部（東大写本 No.346: fols.1b2-2a1, 同 No.347: fol.1b2-1b5, cf. [松濤] p. 124, pp. 282-284）とほぼ同文である。このことは①所収のチベット語訳 {VVS} が SM 第221番と第222番を一括して「ヴァジュラヴァーラーヒー成就法」として訳出しているという事実とも符合し、SMの編纂者にして①の訳者でもあるアバヤーカラグプタがマハーマーヤーとヴァジュラヴァーラーヒーに何らかの関係性を見出していたことが窺える。なお、二種のチベット語訳の顕著な相違点として、SM 第221番の後半部に相当する陀羅尼を、①所収の {VVS} が意識、②所収の {VVKSS} ②が音訳している点が指摘できる。

3. SM 第223番 SM 第223番は本稿の第2節で言及した MMVVNDh の二つの東大写本の直後に同内容のテキストが同じ梵題〈*Mahāmāyādevyāḥ śmaśānam*〉で確認される（[松濤] p.311 参照）。SM 第223番に対応するチベット語訳は①には存在せず、②では {VVKSS} ②の一部として SM 第221番と第222番に引き続いてチベット語訳されている。なお、①とほぼ対応し、最古の年紀（A.D.1165 書写）をもつ梵文写本 SŚP（[Bühnemann] pp. 151-152）には SM 第223番に相当する梵文は存在しない。したがって、SM 第223番は①の翻訳時には成立しておらず、SM 第221番～第224番の中もっとも成立が遅いと判断しうる。

4. SM 第224番 SM 第224番に対応するチベット語訳は、①では『一切の願望を成就させる吉祥なるヴァジュラヴァーラーヒー儀軌』**Śrīvajravārāhīkalpaḥ sarvārthasādhakaḥ* (= {VVKSS} ①)⁶⁾ としてチベット語訳されているが、②では {VVKSS} ②の一部として SM 第223番に引き続いてチベット語訳されている。二種のチベット語訳の中、SM 第224番の梵文テキスト (= VVKSS)⁷⁾ により近い読み (= 解釈) を示すものは {VVKSS} ②である。なお、バッタチャリッヤ氏は SM 第224番末尾の *Śrīvajravārāhīkalpaḥ sarvārthasādhakaḥ* を梵題とせず、これを本文に含めて〈*Vajravārāhīsādhanam*〉を SM 第224番の梵題としているが、氏が与えた梵題が近代に書写された1写本（氏の略号は Nb）のみに依拠したものであり（[Bhattacharyya] p. 438, footnote 7）、比較的古い他の諸写本と二種のチベット語訳には確認されないことから、また SM 第224番のみに対応する {VVKSS} ①の冒頭に確認される梵題とチベット語の題とその奥書に確認される題（注6 参照）から、SM 第224番の梵題は〈*Vajravārāhīsādhanam*〉ではなく、その直前の〈*Śrīvajra-*

(104) 『成就法の花環』第221番～第224番について(大 観)

vārāhikalpaḥ sarvārthasādhakāḥ) であると筆者は考える。SM 第224番の著者は不明であるが、これと同内容で同じ題をもつアドヴァヤヴァジュラの著作(D: No. 1578/P: No.2289)があり([梵仏研Ⅳ] p. 278), 両者は『グヒヤサマヤ・サーダナマラー』第18番と一致する([梵仏研Ⅳ] p. 278, p. 287, p. 465 [English] p. 366)。また、筆者の調査によれば、ヴァナラトナ(A.D.1384-1468)の著作・翻訳(D: No.1604/P: No. 4680)もこれらと一致する。

5. 結論 SM 第221番～第224番とこれに対応する二種のチベット語訳の対応関係を示せば、次の如くとなる。

【SM (Nos.221-224) の梵蔵テキスト対応表】⁸⁾

SM (バクチャリッヤ校訂梵本)	①『百成就法集』		②『成就法の大海』	
No.221 ([Bhattacharyya] pp. 434-436) 〈 <i>Jvālāmukhisāadhanaprayogaḥ</i> 〉	{VVS}	D: No.3297 (39b7-40b6) P: No.4119 (327b3-328b5)	{VVKSS} ②	D: No.3610 (234b1-235a4) P: No.4432 (305a1-?)
No.222 ([Bhattacharyya] p. 436) 〈 <i>Mahāmāyājvālāmukhivajravārāhiprayoga-sāadhanam</i> 〉	{VVS}	D: No.3297 (40b6-41a3) P: No.4119 (328b5-329a3)	{VVKSS} ②	D: No.3610 (235a4-235a7) P: No.4432 (?-306a3)
No.223 ([Bhattacharyya] p. 437) 〈 <i>Mahāmāyādevyāḥ śmaśānam</i> 〉	対応訳なし		{VVKSS} ②	D: No.3610 (235a7-235b4) P: No.4432 (306a3-306b1)
No.224 ([Bhattacharyya] pp. 437-438) 〈 <i>Vajravārāhisāadhanam</i> 〉 → 〈 <i>Śrīvajravārāhikalpaḥ sarvārthasādhakāḥ</i> 〉 (= VVKSS)	{VVKSS} ①	D: No.3298 (41a3-41b4) P: No.4120 (329a4-329b6)	{VVKSS} ②	D: No.3610 (235b4-236a3) P: No.4432 (306b1-307a2)

以上、筆者の調査をまとめれば、SM 第221番と第222番は、①では {VVS} として、②では {VVKSS} ②の一部として一括されてチベット語訳されている。SM 第223番に対応するチベット語訳は①には存在せず、②では {VVKSS} ②の一部としてチベット語訳されている。SM 第224番は、①では {VVKSS} ①として、②では {VVKSS} ②の一部としてチベット語訳されている。したがって、①所収のチベット語訳がSM 第223番の翻訳を欠き、②所収のチベット語訳がSM 第221番～第224番を一括して翻訳しているという事実から、{VVKSS} ②は①所収のSM 第221番～第222番に対応するチベット語訳 {VVS} とSM 第224番のみに対応するチベット語訳 {VVKSS} ①に、①に存在しない、すなわち①の翻訳段

階では成立していなかった SM 第 223 番のチベット語訳を増補したものであると結論付けることができる。

- 1) 以下, SM はバッタチャリッヤ校訂梵本 [Bhattacharyya] を指示する。
- 2) バッタチャリッヤ氏は近代に書写された 1 写本 (氏の略号は Nb) のみに存在する奥書に従ってそれぞれこのようなタイトルを与えている ([Bhattacharyya] p. 436, footnote 4)。
- 3) 以下, SM 第 221 番～第 222 番に対応する①所収のチベット語訳 (D: No.3297/P: No. 4119) を {VVS} と呼ぶ。なお, SM には *Vajravārāḥisādhana* という {VVS} と同タイトルの文献が複数確認されるが (例えば SM 第 217 番, 第 219 番など), 本稿では SM 第 221 番～第 222 番に対応する①所収のチベット語訳 (D: No.3297/P: No.4119) を指示する点に留意されたい。なお, {VVS} の冒頭に確認される梵題とチベット語の題は, それぞれ *Ba dzra bā rā hī* (P: *hi*) *sā dha nam* (emendation, D/P: *nam*), *rDo rje phag mo'i sgrub thabs* (D と P に異読なし) であり, その奥書には『ヴァーラーヒー成就法』*Phag mo'i sgrub thabs* (D と P に異読なし) という題が確認される。
- 4) 以下, SM 第 221 番～第 224 番に対応する②所収のチベット語訳 (D: No.3610/P: No. 4432) を {VVKSS} ②と呼ぶ。なお, {VVKSS} ②の冒頭に確認される梵題とチベット語の題は, それぞれ *Śrī ba dzra bā rā hī kal* (D: *kā*) *pa* (D: *lpa*) *sa rbā* (emendation, D: *rba a*, P: *rba*) *rtha sā dha nam* (emendation, D/P: *nam*), *dPal* (P: *dPal ldan*) *rdo rje phag mo'i rtog pa don thams cad sgrub par byed pa* であり, その奥書には *dPal rdo rje phag mo'i* (D: *mo*) *rtog pa* (D: *pa las gsuñs ba'i*) *don thams cad sgrub* (P: *bsgrub*) *pa'i thabs* という題が確認される。したがって, {VVKSS} ②の梵題は, **Śrīvajravārāḥīkalpasarvārthasādhana* (D の奥書の読みでは **Śrīvajravārāḥīkalpa-ukta-sarvārthasādhana*) ということになる。
- 5) 以下, MMVVNDh と略。筆者は MMVVNDh の梵文校訂テキスト (= SM 第 221 番と第 222 番の梵文再校訂テキストに相当), 及び本稿の関連諸文献すべての校訂テキストと訳註をすでに完成しており, 機会があれば公表する予定である。
- 6) 以下, SM 第 224 番のみに対応する①所収のチベット語訳 (D: No.3298/P: No.4120) を {VVKSS} ①と呼ぶ。なお, {VVKSS} ①の冒頭に確認される梵題とチベット語の題は, それぞれ *Śrī ba dzra bā rā hī* (P: *hi*) *kalpaḥ* (emendation, D: *kālpa*, P: *kalpa*) *sarbā* (emendation, D: *sarba a*, P: *sarba*) *rtha sā dha kaḥ* (P: *kā*), *dPal rdo rje phag mo'i rtog pa don thams cad sgrub pa* (D と P に異読なし) であり, その奥書には *dPal rdo rje phag mo'i rtog pa don thams cad sgrub* (P: *bsgrub*) *par byed pa* という題が確認される。
- 7) 以下, VVKSS は [Bhattacharyya] における SM 第 224 番の梵文テキストのみを指示する。
- 8) 表中の 〈 〉 は梵題を, | | はチベット語訳に与えられている題の略号をそれぞれ示す (〈略号と参考文献〉参照)。なお, {VVKSS} ②の北京版 (P: No.4432) の fol. 305b は明らかに別のテキストが混入したものであり, {VVKSS} ②のテキストではない。したがって, 当該フォリオに相当する部分は疑問符 (?) で示した。

(106) 『成就法の花環』第221番～第224番について (大 観)

〈略号と参考文献〉

Bhattacharyya Bhattacharyya, Benoetosh (1925/1928), *Sādhanaṃālā*, Vol.1/Vol.2, GOS No.26/No.41, Baroda. 梵仏研Ⅳ 塚本啓祥, 松長有慶, 磯田熙文編 (1989) 『梵語仏典の研究Ⅳ密教経典篇』平楽寺書店. **Bühnemann** Bühnemann, Gudrun (1994), **Sādhanaśataka* and **Sādhanaśatapañcāśikā*, *Two Buddhist Sādhana Collections in Sanskrit Manuscript*, Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde 32, Wien. **D**: sDe dge (Derge) Edition. **English** English, Elizabeth (2002), *Vajrayoginī, Her Visualizations, Rituals, and Forms*, Boston: Wisdom Publications. 松濤 松濤誠廉 (1965) 『東京大学図書館所蔵梵文写本目録』鈴木学術財団. **MMVVNDh**: MAHĀMĀYĀVAJRAVĀRĀHĪNĀMADHĀRAṆĪ (注5参照). 大観 2010 大観慈聖 (2010) 「陀羅尼と称する三つのマハーマーヤー系文献について」『印度学佛教学研究』59-1, pp. 433–429 (pp. 100–104). 奥山 1988 奥山直司 (1988) 「チベット仏教パンテオン形成に関する二つの課題」『印度学佛教学研究』36-2, pp. 892–886 (pp. 94–100). **P**: Peking Edition. **SM**: SĀDHANAMĀLĀ (= [Bhattacharyya]). **VVKSS**: SM (No.224). {**VVKSS**} ①: *ŚRĪVAJRAVĀRĀHĪKALPAḤ SARVĀRTHASĀDHAKAḤ (D: No.3298/P: No.4120) = A Tibetan translation of VVKSS. {**VVKSS**} ②: *ŚRĪVAJRAVĀRĀHĪKALPA[-UKTA-] SARVĀRTHASĀDHANA (D: No.3610/P: No.4432) = A Tibetan translation of SM (Nos.221–224). {**VVS**} : *VAJRAVĀRĀHĪSĀDHANA (D: No.3297/P: No.4119) = A Tibetan translation of SM (Nos.221–222) corresponding to MMVVNDh.

〈キーワード〉『成就法の花環』(=SM), 『百成就法集』(=①), 『成就法の大海』(=②), 『ヴァジュラヴァーラーヒー成就法』(={VVS}), 『一切の願望を成就させる吉祥なるヴァジュラヴァーラーヒー儀軌』(=VVKSS/ {VVKSS} ①), 『『吉祥なるヴァジュラヴァーラーヒー儀軌』〔に説かれた〕一切の願望の成就法』(={VVKSS} ②), 『マハーマーヤーヴァジュラヴァーラーヒーと名づける陀羅尼』(=MMVVNDh), アバヤーカラグプタ, ヴァジュラヴァーラーヒー

(京都大学大学院修了)